

平成 24 年度第 1 回学校給食センター運営委員会

- 1 日時 平成 24 年 7 月 19 日(木)
- 2 場所 幕別町教育委員会 会議室
- 3 委員長の選出 委員長 庄司克哉(糠内小学校校長)
- 4 議事と説明内容

(1) 幕別町学校給食センターについて

概要等を以下のとおり説明

【幕別学校給食センター】

調理食数 2,850 食(平成 24 年度当初)

受配校 小学校 8 校、中学校 4 校、へき地保育所 4 所、幼稚園 2 園

職員数 事務管理部門 5 名、調理員 17 名、配送員 4 名(委託)

給食費 小学校 228 円、中学校 277 円

【忠類学校給食センター】

調理食数 263 食(平成 24 年度当初)

受配校 小学校 1 校、中学校 1 校、へき地保育所 2 所

職員数 事務管理部門 3 名、調理員 4 名、配送員 1 名(委託)

給食費 小学校 232 円、中学校 277 円

(2) 幕別町学校給食センター条例施行規則の改正に伴う審議事項について

学校給食センター運営委員会の審議事項として、「衛生管理」「献立作成」「物資選定」に関することなどを新たに追加。

(3) (仮称)十勝圏高等支援学校設置に伴う学校給食の提供について

北海道教育委員会が平成 25 年度より、知的障がいの生徒を対象とした(仮称)十勝圏高等支援学校を幕別高等学校の空き教室に開設することや、開設に当たり、給食の提供について依頼があったため、来年度より実施することで、現在調整をしている旨を説明。

(4) 栄養教諭の配置に対する考え方と食育の推進について

栄養職員については、現在、幕別給食センターに 2 名、忠類に 1 名を配置しているが、平成 25 年度には、忠類の 1 名を栄養教諭として学校に籍を移し、配置する計画であることを説明。

なお、幕別給食センターの場合は、まだ多くの課題があるため、学校訪問による給食指導の充実や、教職員との連携を図り、食育の充実を図りと説明。

(5) 学校給食のアレルギー対策について

現在の対策は、事前に学校を通じて保護者に給食の食材内容をお知らせし、申し出により弁当を持参してもらうという対応と、牛乳の代替食として豆乳を提供している。

代替食や除去食を提供する場合、独立した調理場の設置や専用の調理器具等の配置、専任の調理員の確保など課題が多いことから、今後、施設の改修や設備・人的配置に係る費用を含め検討し、町の総合計画などにも盛り込み、進めていきたいと説明。

(6) 小・中学校における「弁当の日」について

道内の事例では、3つの小・中学校が取り組んでおり、学校の独自性を生かし「柔軟に無理なく」を基本的な考えとしており、学校のクラスや保護者の発案・提案により取り組まれたのが発端となっている。

取り組みに当たっては、町教委が全校一斉に取り組むという手法ではなく、学校や保護者・PTAの共通認識のもとに取り組むことが不可欠であると説明。

(7) 給食食材の放射能測定について

「放射能測定」は、国や都道府県が実施しており、市場に出回っているものは、安全であると認識しているが、十勝管内では放射能測定を実施している市町村が6つある現状を説明。

運営委員からは、「食品の放射能汚染に対し不安があるので、ぜひ放射能測定検査を実施してほしい。」という意見や「市場に流通しているものは安全であり、検査を実施する必要はない。」という意見もあった。

このような意見をふまえるとともに、今後の状況を見据えながら、対応していきたいと説明。

(8) 米飯給食の拡大について

昨年、匿名の方から、町のホームページ「掲示板」への投稿があったが、その内容は、「米飯給食の回数を増やすべき。また、ゼリーなどのデザートやチョコチップパンなどの菓子パンは廃止すべき。」との要望であった。

これに対する町教委の回答として、「米飯給食は週3回、麺類とパン類がそれぞれ週1回とバランスを図っており、米飯給食をこれ以上増やすことは考えていない。また、デザートやパンについても、幅広い食材を活用した給食の提供という観点から、今後も進めていきたい。」と回答をした旨を説明。運営委員会では、回答のとおり、これまでの内容を維持すべきということでは了承を得た。